

優秀賞 鳥取県 足立 康春 様 (30 代)

2023 年 6 月。当時、3 歳の息子が自閉スペクトラム症と病院で告げられたとき、心のどこかで安堵した自分がいた。毎日のパニックや癇癪が育て方の問題なのだとしたら、これ以上どうしたらいいのか途方にくれていて、病でも何でもいから何かに責任転嫁したかった。

その日の夜、それでもやっぱりわが子が障害児という現実をつきつけられて胸が苦しくなった。でも泣いたらアカンと思った。泣くというのは悲しくて不幸だということ。ここで泣いたらわが子は不幸な存在と認めることになる。別にわが子は不幸になったわけではない。だから泣かない、絶対に泣かない。そう決意した 5 分後やっぱり泣いた。

そんなセンチメンタルなことがあった翌日以降も日常は続く。他人に興味がなく声をかけても反応しない。言葉の遅れもあって要求を伝えられないから、パニックがおこる理由がわからないし、タイミングも予測できない。とにかく安心させようと背中をさすったりするけど、感覚過敏のせいかその手を振り払い、さらに泣き叫ぶ。あんなに愛した息子に対して、ほんの少しだけ負の感情が芽生えてしまったときが、本当にきつかった。

今の息子に必要な支援を片っ端から利用した。週に 1 度療育に通い、療育手帳を取得し、特別児童扶養手当を受給した。手続きのために何度仕事を休んで迷惑をかけただろう。

そんな毎日に奔走する傍ら、将来の不安も沸々と芽生え始める。親なき後問題だ。自分が死んだ後、息子はどう生計をたてていくのか。いま、受けている支援はどれも成人を迎えると終了するものばかり。だいたい先のこともかもしれないが、見通しをたてておきたかった。高齢者の大半は年金がないと生活が成り立たないとよく耳にする。老後の 2000 万円問題とか年金の未納問題とか、ニュースで見ても自分事として捉えていなかった。息子は将来稼いで、年金を納められるのだろうか。漠然とした不安ばかり頭をかすめる。

ふいに「こども 自閉症 年金」と検索してみた。

そこで、20 歳前傷病による障害基礎年金というものにいきつく。息子のように 20 歳前に一定の障害基準に該当した場合、年金を納付していなくても、20 歳になると障害基礎年金をもらえるらしい。福祉の要素強めである。ただし受給のための要件がとにかくややこしそう。特に初診日を証明することが大変そうで、

マイナンバーカードを利用して、受診経過を残しておこうと思った。療育手帳の区分がBだから、おそらく年金は2級。低所得者を対象にした年金生活者支援給付金を合わせれば月額にして70000円程度。正社員並みの給料がもらえなくてもなんとか生きていけそうな気がする。ありがたい。この日を境に、給与明細の控除欄を見て舌打ちする自分とはおさらばした。

自分の理解が正しいのか、利用できる年金制度を網羅的に熟知できたか全然自信がなく、年金事務所の窓口に出向いたら、すごく丁寧に説明してくれた。就労が難しい人には年金支払の免除制度があり、免除申請するのと、放置して滞納するのでは、年金を払ってないという事実は変わらなくても、将来の利益に大きく差がでることもわかった。

数々の行政支援を受ける中で身に染みたことは、制度から勝手に対象者に歩み寄ってくることはないが、自らアンテナをはって少し調べて相談すると、必ず救いの手を差しのべてくれるということだ。

後日、学んだ知識を引っ提げて、児童精神科の定期受診の際、障害基礎年金の初診日証明の相談をしてみた。

「これまでの成長幅を考慮すると、おそらく20歳頃には年金の必要ないレベルになると思いますよ」

先生はそう言ってくれて、拍子抜けした。俄には信じがたかったが、先生表情からは、ただの慰めではなく確信が宿っているように見受けられた。一筋の希望を見出だせる嬉しい拍子抜けだった。

もうすぐ5歳になる息子は、食事・着替えなどに介助が必要で、コミュニケーションもままならず、感情のコントロールもまだまだ難しい。でも、少しずつ他人にも興味を持ち始め、輪に入るようになってきたし、できることも増えてきた。保育園の子どもたちに障害児に対する偏見は一切なく、むしろちょっとモテているのでは、と思うことすらある。保育園、療育機関、児童精神科医、みんなで一丸となって育ててもらっている効果が少しずつ現れている。この姿をあのときの自分に見せてあげたらどれだけ安心するだろう。

20歳前傷病による障害基礎年金をセーフティネットとして心のお守りにしながら、いつかは就労して年金を納付することで、社会を支える一員となり恩返しする。

そんな目標を掲げ、息子と一歩ずつ人生を歩んでいく。